

● ● キリストが崇められる教会 ● ●

(ピリピ 1:12-21)

新年を迎え、皆さんが新たな期待を胸に実りのある一年を歩もうとしておられることと思います。ラスベガス日本人教会は、今年も主が与えて下さった新しい標語を掲げて主の業に励んでいきたいと思ひます。今年、ピリピ書 1:20 より、『キリストが崇められる教会』という標語が与えられました。

イエス・キリストは、私たち人間にとって喜びのおとずれです。この方は私たちの罪のために十字架にかけられ、永遠の命のために復活し、信じる者に罪の赦しと永遠の命を与えて下さいます。そして、この罪の赦しと永遠の命は、このキリストによる以外にそれを得る方法がない事を考えれば、これこそが本当の福音です。

そこで、今年のラスベガス日本人教会は、次の三つの事を心に留めながら、キリストが崇められる教会を目指していきたく願っています。

(1) 福音の前進のために生きる

パウロは、キリストを宣べ伝えたために迫害に遭い、ローマの牢獄に入れられてしまいました。パウロという人はキリスト教世界を代表する指導者ですから、その彼が捕らえられたという事は一大事でした。ところが、パウロはそういう中で、彼の身に起こった事が、むしろ福音の前進に役立つようになったと言いました(12節)。なぜなら、彼が牢獄の中で警備をする人々に伝道し、それがやがて兵営全体に広がったからです。

福音を伝えたことで捕らえられ、投獄されたにも拘わらず、そんな事を続けられれば罪が重くなる危険の中で、パウロはキリストの愛に押し出されるようにして福音を伝えたのです。それはひとえに、キリストが崇められることだけがパウロの願ひだったからです。また 14 節を見ると、パウロの投獄をきっかけに、

他のクリスチャンたちの信仰が確かなものになり、彼らが大胆に福音を宣べ伝え、それが福音の前進となったことが書いてあります。私たちも、どんな困難の中でも、キリストが崇められることを願って、福音を宣べ伝えたいと思ひます。

(2) キリストの心を心として生きる

パウロは 21 節で、「私にとっては、生きることはキリストである」と言っていますが、これは、キリストのために生きるということよりも、キリストが私たちを通して生きられること、そのために私たちがキリストの心を心として生きるということです。何をすることも、キリストの心を心として行なう、どんな状況においても、キリストならきっとこうされるだろうと思えることだけをしていく、それがキリストが崇められる生き方です。

(3) 死ぬことすらも益として生きる

パウロは 21 節で、「私にとっては、死ぬことも益です」と言っていますが、この言葉を直訳すると、「死ぬという事は、私の獲得物である」ということです。一般的には、死というのはマイナスのイメージがありますが、この誰もが恐れ、嫌がる死を、クリスチャンにとっては獲得物であると言ったパウロは、死に対して全く自由でした。むしろパウロは、この世を去ってキリストと共にいることが遙かに望ましいとさえ言いました。この世を去ってキリストと共にいるというのはパラダイスに行くことです。パウロが、ここまではっきりと言えた理由は、彼がこのパラダイスを本当に見たからです。そして、パウロが見たパラダイスは、私たちにも約束された場所です。そのパラダイスの確かさを神様はパウロに直接見せることによって、その事実の証人とされたのです。この事実の上に、死ぬことさえも益であるという世界が私たちの前途には広がります。そんな死生観、そんな世界観に根ざした歩みをしながら、キリストを拡大して、世の人々に証しする、それがキリストが崇められる生き方です。

LVJCC 牧師：鶴田健次

DREAMS COME TRUE

- ✦ 教会堂の建設
- ✦ 敬老ホームの設立
- ✦ 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救いのために
- 各スモールグループのオikos伝導のために
- 入門者クラスのために (田中兄、愛子姉、Mark 兄)
- 英語部の働きのために
- 小さな子供を持つお母さん方のクラスのため
- 日本にいる堀田兄弟の献身者の学びのため
- 癒しの祈り: 和美姉、真奈美姉、みえこ姉、神崎先生の目、倉田一徳さんの脳腫瘍、新井雅之兄の癌、夕紀子姉、美津子姉、かよこ姉、Mary 姉、以津子姉、エナちゃん、Kahoku さん、理恵姉

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。
lvjccnews@hotmail.com
発行人：鶴田健次
編集人：松岡みどり

新春



編集室 便り

新年明けましておめでとうございます。

年毎に過ぎ行く一年が早く感じられるのは私だけでしょうか。幼い頃の一年は、まるで永遠のかなたにあるもののように遠くに感じていたのに、この時間感覚の変化は驚くほどの違いです。しかし晩年が短く感じられるというのは、ある意味神様の優しさなのかもしれません。

それにしても今年も世界的不況の中で迎えた新年ですが、私たちは、いつも変わることのないキリストにつながっており、平安と希望に満ちた毎日を送れる幸いを心から感謝したいと思います。

この一年が、皆様の上に、主よりの豊かな祝福と、ご健康の守がりますようお祈り致します。



～ 新年も主に期待 ～

青年会リーダー：鈴鹿 早希

2009年の夏、私は一つのビジョンを見ました。何にもない砂漠に、私は一人で立っていました。周りからは『その場所には何をしても無駄だ、やめておけ』というような声が聞こえてきました。それでも私は、その場所に勇気を出して足を踏み入れました。するとどうでしょう。踏み入れた足元から砂が溶け始めて、その場所はたちまち湖ようになったのです。それは、間違いなく主がくださったビジョンでした。

砂漠はラスベガスの地を意味していました。『Sin City』(罪の街)と呼ばれるこの街には福音を伝えていくことなど不可能だと思いがちになります。しかし、人間がそのように思うだけで、神様は決してこの街を諦めていないというメッセージでした。いや、むしろ主はこの街を誰よりも愛してくださっています。主を信じ、足を踏み入れたその時には、すでに命の水がこの地に注がれていることを知るだろう、と主は伝えてくださったのです。そして実は、砂漠が湖に変わったのではなく、その場所は元々湖で、表面だけが砂浜だった、という絵をその後に見たのです。不思議な絵でしたが、はっきりとその絵と内容を覚えていたので、これは主からのメッセージだと思い、しっかりと握り締め、色々なところでこの証しをしました。

主は、何も無いところに新しいものを造り出すことが出来るお方です。今年も主は、新しい御業をこのラスベガスの地で行おうとしておられます。それは、ラスベガス日本人教会に、新しく青年会を立ち上げるという計画です。2009年の夏休みに参加した伝道旅行をきっかけに、私は、青年会のリーダーになる召しを主から受け取りました。前例も基盤もない、新しい働きだけに最初は何から始めていけばいいのかと不安でしたが、必ず主がこの働きを導いてくださると信じて、毎週日曜日の礼拝後に賛美と祈りのときを持つことになりました。

最近になって、新しい学生たちが教会を訪れてくれるようになりました。主のご計画はいつも完璧で、そのため主が送ってくださった兄弟・姉妹であることを確信し、

感謝しています。ある兄弟は、主のために何かご奉仕がしたくてたまらない！と言ってギターの練習を始めました。決して自らを喜ばせるためではなく、ただ主のために…と熱意を持って働いてくれる仲間、とても励まされています。ある姉妹は入門者クラスを受け始めました。聖書を学びもっと神様を知りたいと思っている姉妹が、喜びをもって参加出来る青年会を作っていきたいと思ひます。

現在の青年会の働きは、賛美と祈りです。学生クリスチャンが集まるカンファレンスなどでよく賛美される曲を選び、教会に初めて来てくれた人でも楽しんでもらえるような賛美のときを持つことが目的です。またその賛美の曲と歌詞を通して、私たちが讃える神様を多くの学生に証ししていければと願っています。また、祈りの時を通して、青年会が聖別されるように祈ります。祈るというクリスチャンの習慣から、祈りには届く場所があること、主の御名によって祈ることの大切さを証ししていきたいです。また、イエス様が人々と交わりを深めるため食を共にされたように、私たちも食事会を開いて交わりを深めたいと思ひます。去年の10月には、LAで行われたクリスチャン集會に2人の兄弟・姉妹と共に参加しましたが、将来は、青年会メンバーで巡回伝道旅行をしたり、他の州で行われるクリスチャン集會に参加したいです。

主は、ラスベガス日本人教会の青年会を『ARK』と名付けてくださいました。これはノアの箱舟のお話からです。高い丘の上に箱舟を造り始めたノアの姿は、初めは愚かに見えたかもしれませんが、何人も人が彼を馬鹿にしました。しかし、ノアは、そのような人間の言葉に耳をかさず、ただ主のおっしゃることだけに忠実でした。そして主がおっしゃる箱舟の高さ・長さ・深さを正確に守り、箱舟を完成させていきました。青年会ARKも、基盤を作ってくださいるのは主です。私たちはただ、主の声に忠実に聞き従い、この働きに用いられたと思ひます。ARK(箱舟)は、イエス様の十字架を象徴しています。このARKの働きを通して、多くの学生が福音を聞くことが出来るように、主がこの新しい年も導いてくださることを期待して、仲間と共に祈りと賛美をもって歩んで行きたいと思ひます。